



Scene 1 体験談

コロナを経験した 私たちから皆さんへ

今回、湯浅保健所全面協力のもと、新型コロナウイルス感染症陽性と診断された方々にお話を伺いました。以下の体験談から、感染症の正しい理解と思いやりについて、一緒に考えてみましょう。

まさか、自分が…



◆冬になると風邪をよくひくため、「また風邪だな」と思い、風邪薬をもらう目的で病院に行くと、「陽性」と診断され、次の日から入院すること。
「自分は感染症にかからない」と心のどこかで思っていたので、びっくりしました。

心の痛む言葉が

◆退院後友だちに会い、感染症のことを話すと、その時吹いている風向きを調べられ、「自分より風下でいるように」と言われ、すごく傷つきました。

普段と変わらず

いてほしい

◆辛いことも多かったけれど、「良く帰ってきてくれた！その程度で済んでよかったな」と声をかけてくれたのが嬉しかった。
感染しないことが一番大事ですが、感染した時やその後のまわりの反応が変わらずいてくれることが何よりありがたいと感じます。ともあれ、バランスの取れた食事と睡眠、うがい・手洗い・マスク着用など感染対策が大事だと再確認しました。

特集

コロナ×人権

今こそ問われる「市民力」

新型コロナウイルス感染症が私たちの日常になり、まもなく2年―。

ここまで、自粛や制約など、

誰も経験したことがない不安を

たくさん乗り越えてきました。

ここでちょっと立ち止まって

一緒に考えてみませんか。

コロナを恐れるあまり

他人を傷つけていませんか？

